

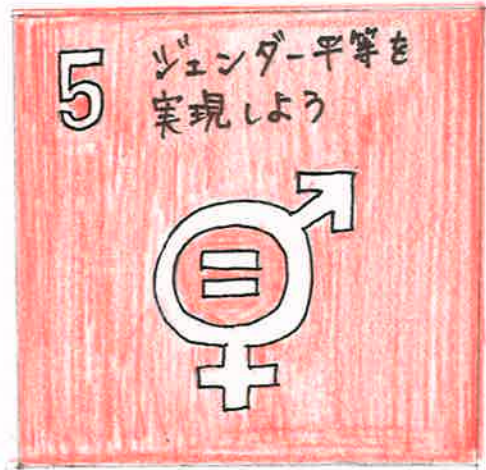
家族がみな

ハッピーに

鹿児島第一中学校

3-2, 21, 南 結衣

今回注目する目標は



“ 男女平等を実現し、  
すべての女性と女の子の能力を伸ばし、  
可能性を広げよう ”

- ① 先進国と発展途上国が抱える問題
- ② ターゲット5-4: 無報酬労働への意識の改革について

## 目標5

大きく2つのグループに分けられる

a. 主に発展途上国で起きているもの

注1

• 女性や女の子の売買

• 児童婚

• 女性器を刃物で切り取る慣習

18歳未満で  
強制的結婚させられた人は  
年間1200万人

注2

- 世界30ヵ国で行われている
- これまで2億人以上の女の子が  
切除された
- 感染や不妊、死亡のリスクが高まり  
有害である

⇒ 生命や将来に非常に悪い影響をもたらす  
ため、一刻も早い解決が必要である！

解決に向けて

- JICAなどの組織の活動  
(女子トイレの整備など)

法や慣習の改変までは未だ至っておらず、

上記の問題の解決は進んでいないのが現状！

4  
b. 主に先進国で起きているもの (日本の場合)

・ 各分野の、全体における女性比率が低い

科学：女性研究者が全体の約15%

政治：女性議員は全体の約10%

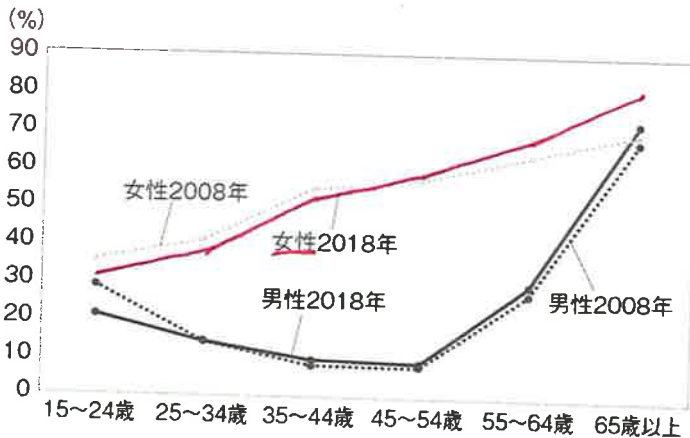
(総務省)

・ 雇用機会・賃金の格差

収入：女性の給料は正社員であっても  
男性の75%程度

(厚生労働省)

・ 女性の非正規雇用



・ 男性より圧倒的に女性の方が比率が高いことがわかる

・ 女性は中年になるほど比率が高くなる

注：役員を除く雇用者に占める非正規の職員・従業員の割合。15~24歳は在学中を除く。

出所：権丈英子(2019)前書、64頁、図表34のデータを更新したもの。  
データは総務省統計局「労働力調査」。

(データ)

⇒ 出産後、再就職する女性には非正規の雇用機会しかほぼ用意されていない!

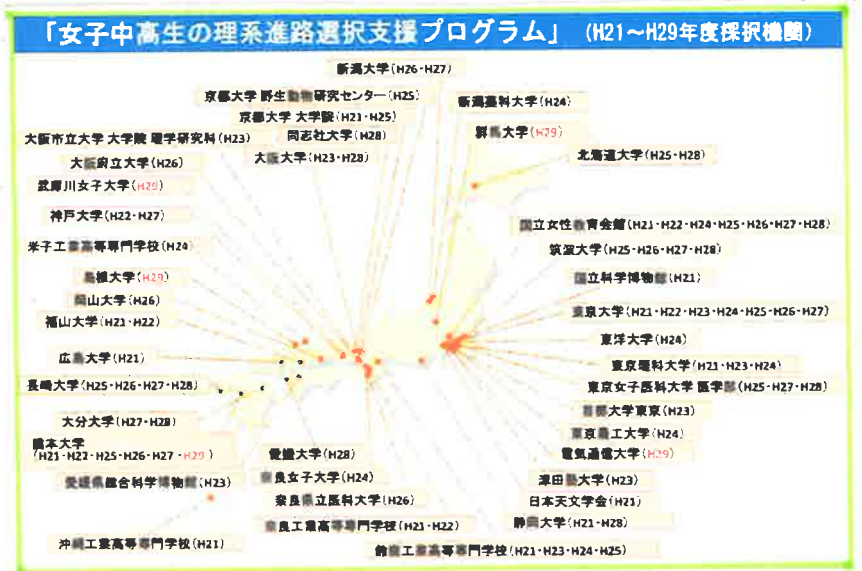
解決に向けて

# 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

(日本)

「女子だから」とためらいを感じることはないよう、  
全国の学校が連携して理系へ進む女子生徒を支援する

平成21~29年度に  
採択した機関一覧!  
多くの学校が採択して  
いることがわかる!



(P-92)

# 賃金格差を禁止する法律

(アイスランド)

アイスランド → 毎年発表される「ジェンダーギャップ指数」で  
数年間1位を獲り続けている  
★ジェンダーへの意識が高い!

従業員が25名以上所属している団体に対して  
男女とも同一賃金が支払われている証明書を  
提出することを義務付けている

⇒ 提出しなかったら1日につき500ドル(約56000円)  
の罰金が発生!

# ・ パートタイム労働法 (日本)

- ・ 正式には「短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律」
- ・ 通常の労働者より短い時間で働いている人全員が対象

<概要の一部> i) 雇い始めや契約更新時は「昇給の有無」「退職手当の有無」などの項目について文書の交付などで明示する

ii) 通常の労働者を募集する場合、その募集内容を既に雇っているパートタイム労働者にも周知させる

☆ 日本の非正規労働者は多い!

しかし ワーク・ライフ・バランス等の観点から

自らの希望で非正規雇用を選択しているケースもある

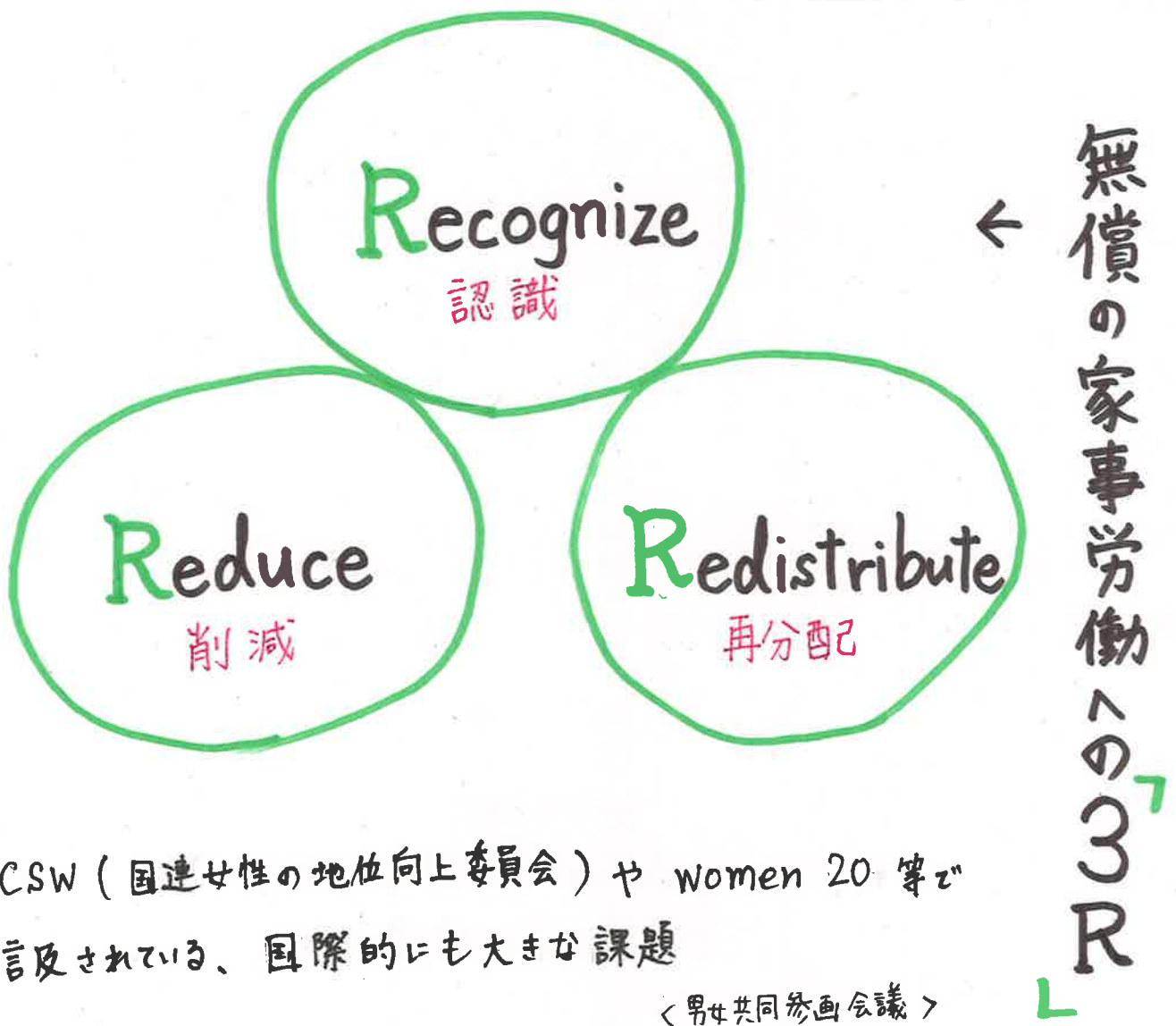
⇒ 日本は 数を減らすことよりも 対遇の改善により 非正規雇用で 働きやすくすることに重きを置いている!

※ 正社員への転換をしやすくすることももちろん進めている

☺ このように日本または世界でも解決に向けた動きは少しずつ進んでいる

※ 地域による格差はある

∞ 主に先進国が抱える問題の中で、特に日本が遅れているのが、育児や介護、家事などの無報酬労働についての意識



# SDGsのターゲットの中にも...

## 5-4

公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、並びに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する

これを達成するためには...

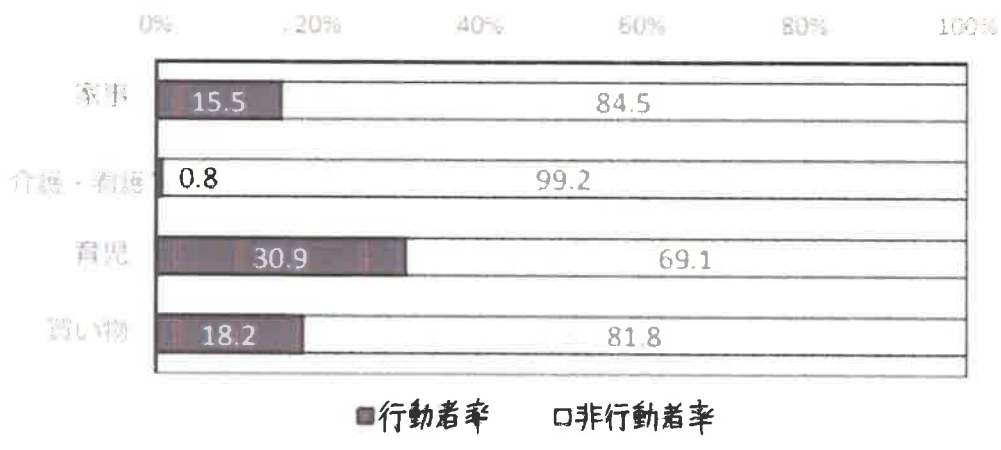
- ① これらの労働を女性がして、仕事は男性がするものだ、という固定観念を改める
- ② 夫婦あるいは家庭内での分担を進める
- ③ 無報酬労働も生きていく上で欠かせない重要な仕事である、という認識を多くの人を持つ

上の3つが必要！！



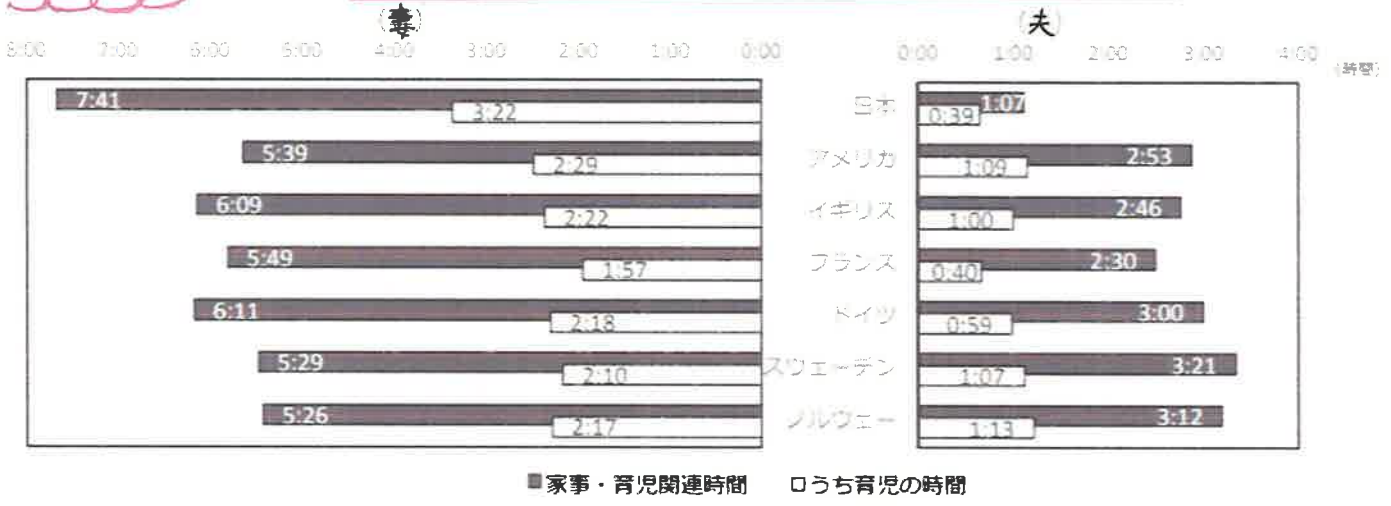
図表1

6歳未満の子供を持つ夫の家事・育児関連行動者率（週全体1日当たり）



図表2

6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連時間（週全体1日当たり）



。図表1より 日本の約7割以上の（6歳未満の子供もを持つ）夫は家事・育児などに参加していないのが読み取れる

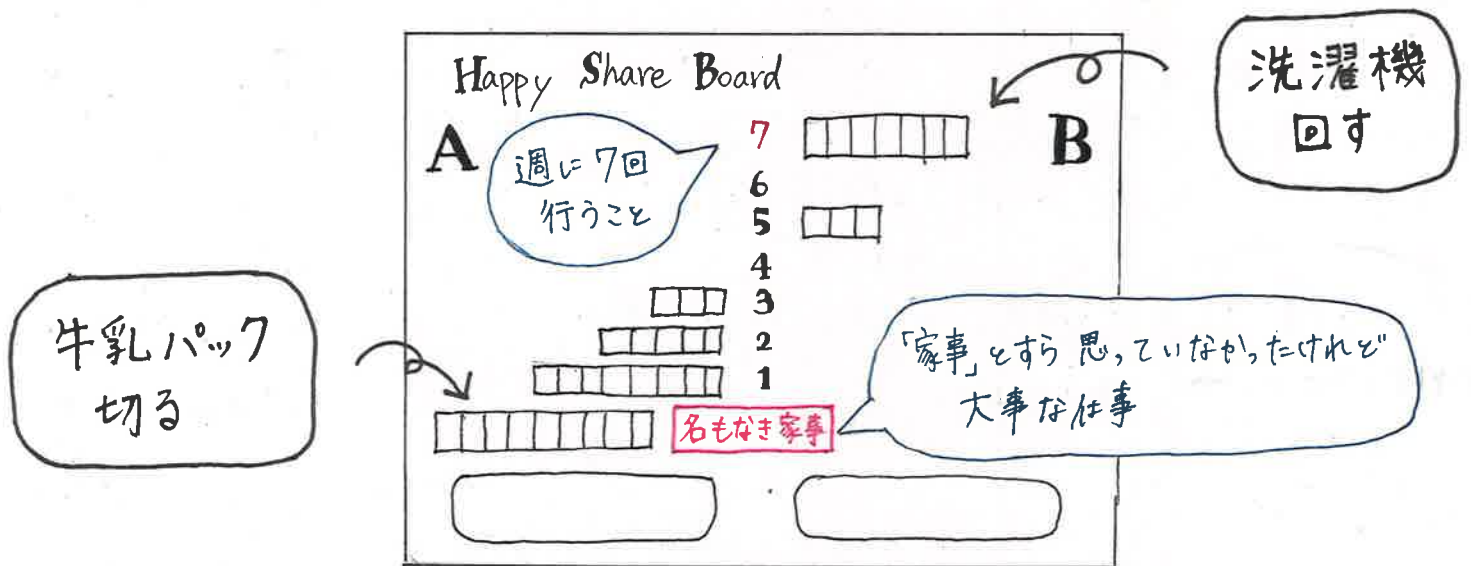
。図表2より 日本における週全体1日当たりの家事・育児などに費やす平均時間は妻が461分、これは夫の67分の約7倍にあたる

⇒ 妻の家事・育児などの分担割合が、日本は主要国と比べて明らかに高いことが分かる

家事・育児の分担を可視化する取り組みが...

# ハッピーシェアボード

開発・提唱：NPO法人 ジェンダーイコール



AさんとBさんのそれぞれが担っている「家庭内のタスク」のツールを頻度別に見貼る。というもの。これにより、どちらかに負担が偏っているかが可視化されたり、自分の知らぬ間に相手がしてくれていたことがわかったりする。また、これを基により効率の良い家事の方法を模索したり負担を減らすために新しい家庭のルールを作ったり、ということが期待できる。

実際に「私」と「母」で体験してみました！

# <私の母の場合>

頻度の  
高いもの

掃除機をかける	トイレ掃除	洗面台を磨く
お風呂掃除	クイックルワイパーで床をふく	アイロンがけ
お弁当作り	お米をとく	洗濯機を回す
お料理	排水口の網を替える	洗濯物を干す
献立を考える	スイッチなどの消毒	洗濯物をたたむ
台拭き除菌		洗濯物をなおす

名もなき  
家事

詰め替え洗剤入れがえ	カーテンの開け閉め	保険の手配
段ボールつぶし	電源コンセント、コードの整理	乾燥機に出かける
通帳記入	学校、習い事等の書類	花を生けかえる

## ◆ 本人からのコメント

あまり気にとめずに行っていた事が家事の一部だと認識し、新鮮に感じた。天候によっても家事内容が変化したり家族のスケジュールによっても増減すると気づいた。

## ◆ 相手からのコメント

こんなに多くのことを毎日のようにしているなんて驚きだった。それと同時に、弱者をほかずにこなす母はすごいと思った。

# < 私の場合 >

タオル畳み

台拭き

調味料を  
片付ける

食器の片付け

各部屋のゴミを  
集める

リビングの片付け

掃除機内の  
ゴミ捨て

炊けたご飯を  
ませる

冷蔵庫にお茶を  
補充する

換気の窓開け

## ◆ 本人からのコメント

毎日やっているものも少ないが、今行っている「名もなき家事」も母の負担を減らすのには少しは役立っていると思えて嬉しかった。ただ、もっと自分にできることを見つけたのでやってみたい。

## ◆ 相手からのコメント

手伝ってもらったことで助かったり、時間短縮になって嬉しかった。彼女ができることは頼んでもいいかなあと思った。

## ◆ これを基に話し合ってみて

- 休日の掃除機がけは「私」がする
- 家に居るときはなるべく気にかけて、状況に応じた手伝いをする
- 「洗面台を磨く」は頻度を減らして行うことになった

仕事分担と負担軽減が進んだ!

## 体験して感じたこと

- 家庭で家事について話し合う良いきっかけとなる
- 自発的に“家事を手伝いたい”と思えるようになる

## 問題点

- 既製品のハッピーウェアボードはクラウドファンディングのリターンでしか入手できない
- この取り組みを実践する人はそもそも意識の高い方が多い
- あまり知られていない

上のようなことから私は、前のステップとして

「男性の興味・関心のあることを用いて問題意識を持ってもらう」ことが必要だと考えた。

例えば

- 家事・育児などをこなすゲームで、楽しみながら理解していく
- 家事・育児などが賃金のある仕事に換算されるとどのくらいになるのかを推察し、示す

など。



問題意識を持ったあとであれば、改善に向けた取り組みや家庭での話し合いがしやすくなると思う。そのため自分一人だけで何かできるのではなく、個々の意識が非常に重要

## おわりに

これまでにはひとまじりに「ジェンダー平等」といっても何が平等でないのか、どんなことに取り組みが良いか、が不透明だった。しかしSDGsの他の問題と同様に解決までいくつかのステップがあり、現状クリアすべきステップは国ごとに異なっていることに気がついた。目の前の課題を多くの人々が認識し、改善に向けて少しずつ動く。まさに3R（認識・削減・再分配）だ。法や慣習を改廃すべきところもあるが、主に3Rの積み重ねが課題解決へと導くと分かった。個々の意識の変革によって全ての家庭に思いやりと感謝の波が伝わり、家族がみなハッピーに過ごせる社会になると嬉しいな。と思う。

## 参考文献

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/5-gender/>

[https://sdgs-support.or.jp/journal/goal\\_05/](https://sdgs-support.or.jp/journal/goal_05/) → (デ-タ2)、注1・2

<https://spaceshipearth.jp/sdgs5-casestudies/>

[https://gooddo.jp/magazine/sdgs\\_2030/gender\\_equality\\_sdgs/8101/](https://gooddo.jp/magazine/sdgs_2030/gender_equality_sdgs/8101/)

<https://www.imf.org/ja/News/Articles/2019/10/15/blog-the-economic-cost-of-devaluing-women-work>

[https://readyfor.jp/projects/gender-equal-shareboard/accomplish\\_report](https://readyfor.jp/projects/gender-equal-shareboard/accomplish_report)

<https://mirasus.jp/sdgs/gender-equality/4904>

[https://gooddo.jp/magazine/sdgs\\_2030/gender\\_equality\\_sdgs/6110/](https://gooddo.jp/magazine/sdgs_2030/gender_equality_sdgs/6110/)

[https://www.mita-hyoron.keio.ac.jp/features/2020/04-4\\_3.html](https://www.mita-hyoron.keio.ac.jp/features/2020/04-4_3.html) → (デ-タ1)

<https://www.somu-lier.jp/column/part-time-workers-act/>

<https://readyfor.jp/projects/gender-equal-shareboard>

[https://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/kurashikata\\_ishikihenka/pdf/0310honbun.pdf](https://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/kurashikata_ishikihenka/pdf/0310honbun.pdf) → 図表1・2